

「将来の私、先達からのメッセージ」



10月7日(土)、石川隆次郎商工会会長による講演会／座談会が、ヒューストン日本語補習校高等部の国語表現の授業の一環として行われました。今回初めて補習校を訪問された石川会長には、3・4校時の講演に先立ち、岡村校長の案内で幼稚部から高等部までの各クラスを視察していただきました。

補習校には、日本から転入したばかりの者から、片親が日本人以外の者、物心つく前にアメリカに移住してきた者、アメリカ以外の複数の外国に在住経験がある者など、日本の大多数の学校では見られない種々多様な背景を持った児童生徒が集まっています。国語表現のクラスでは、そういった生徒たちが高校から先の進路を考えるにあたり、日本語で話したり書いたりするスキルを身に付け、多様な背景を持った仲間からいろいろな視点を学びあいながら、思考を磨くことを目指しています。

今回の石川会長の講演は、「将来の私、先達からのメッセージ」と題し、高校生たちがこれからの進路を考えるヒントを得てもらうことを目的としています。石川会長は、小学校時代をカナダで過ごし、社会人になってからはアメリカに駐在という、合わせて31年の豊富な海外在住経験をお持ちです。また、中学から大学までを日本で過ごされたことから、カナダでの生活経験が日本の学校生活にどのような影響を与えたのかをお話いただくことは、同じような境遇にある高等部の生徒たちにとって、大変興味深いものとなりました。



カナダでは現地校のみで日本の勉強から遠ざかっていた石川会長が、日本で中学生生活を始めるにあたり、毎週読書感想文を書くことで日本語を取

り戻していったというお話しには、「少しずつでも日本語の勉強を積み重ねていた方が、後が楽だと思った」という生徒の感想が出ました。また一方で、せっかくなに身に付けた英語の力を保持するために、英語の本を買ったり雑誌を定期購読させてくれたという石川会長のご両親への感謝の言葉もあり、生徒は「日本語と英語の教育環境を整えてくれている自分の親へのありがたさを感じた」との感想もありました。

最後に、「世界的視野を持つ人材育成の重要性から、海外経験を持つ補習校の生徒たちが、日本と世界の懸け橋になって活躍してくれることを大いに期待している」と、石川会長から激励の言葉をいただき、1時間半を超える授業が終了しました。

前半は、石川会長の海外生活がその後の人生に与えた影響を中心に話していただき、後半は座談会形式で生徒たちからの様々な質問にお答えいただきましたが、率直でざくばらなお話しぶりに、生徒たちは大きくなったり、時には笑みをこぼしながら、真剣に聞き入っていました。お聞きした貴重な体験やご意見の数々は、高校生たちの記憶に深く残り、これからの人生への大切なアドバイスとなりました。お休みの日にもかかわらず、補習校にお越しくださった石川会長ご夫妻に深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

(ヒューストン日本語補習校高等部国語表現担当 佐藤暁子)



第45回ヒューストン日本語補習校運動会開催

令和5年10月21日、見事な秋晴れの下、ヒューストン日本語補習校の第45回運動会が開催されました。

例年大盛り上がりの大玉送りを皮切りに、白組と赤組の熱戦が繰り広げられました。幼稚部から高等部まで、楽しみながらも真剣に取り組む姿勢が印象的で、会場の空気を盛り上げてくれました。そして、久々開催の保護者綱引き、子供だけではなく大人も本気の取り組みを見せ、会場を沸かせていました。

接戦の末、今回は白組が勝利を収めました、全力を出し切った全生徒に拍手を送りたいです。

この一日を成功に導いた生徒、教職員、そして応援して下さった保護者の皆様に感謝いたします。

次回もこの伝統を受け継ぎながら、更なる盛り上がりを期待しています。

(補習校運営委員 鵜飼博哉)

